

# 東日本大震災被災地継続支援報告

東日本大震災からまもなく3年。地震、そして大津波により甚大な被害を受けた地域には、全国の自治体から応援職員が駆けつけ、復旧・復興支援業務に携わっています。



全国から駆けつけた応援職員

苦小牧市でも震災発生直後から延べ42人の職員を派遣しており、このうち上下水道部では、水道や下水道に関わる復旧・復興支援にあたるため、延べ16人の職員を派遣してきました。被災した自治体からは各市長会などを通じて、「広範囲の被災地復旧という未経験かつ膨大な業務が依然として山積しており、相当数の職員不足が今後も続く見込みである」と長期の応援職

員の派遣依頼がなされました。

苦小牧市ではこれに応じ、水道事業は平成25年4月から12月末までの9ヶ月間、下水道事業は平成25年5月から10月末までの6カ月間宮城県名取市への派遣を決定しました。ここでは派遣した職員のレポートをご紹介します。

## ●水道事業（水道整備課 小倉）

私は4月から名取市に派遣され、市街地の配水管の入替等を担当しました。名取市では「震災復興部」という部署を設けており、震災復興関連のことを一挙に引き受けています。この部署は今まで別の部署だった人材が集まっております、横断的に組織されています。

組織の中心的な存在だったベテラン職員が震災復興部へと異動したため、組織体制が新人職員と管理職といった歪な体制となってしまいました。そのような状況の中で、私は水道事業の経験者として配属されたため、今まで苦小牧市で培った経験を生かし、新人職員と管理職との橋渡しの存在になることができたと思います。

## ●下水道事業（下水道建設課 西鳥羽）

私は5月から建設部下水道課建設係に配属されました。

私の名取市での担当業務は、下水道管路の復旧設計で、主に被災した下水道管の布設替えの設計を行いました。

下水道管は通常地下に埋められ固定されていますが、地震の影響で土が液状化現象を起こすと、土中で浮上や沈下を繰り返し、その結果まっすぐ埋められていた管はジグザグになってしまいます。そのまま放置すればやがて詰まってしまうので、これを直すために古い管を撤去し、新しい管を入れ直す工事を行いました。

被災地では長期にわたり人員が足り



液状化現象により隆起したマンホールを調査する職員

いません。そのような中で微力ながら被災地に貢献できたと感じています。

## ●おわりに

名取市役所で、様々な言語で書かれた日の丸の寄せ書きを見つけました。



様々な言語で書かれた寄せ書き  
世界中の人たちが日本を応援しています。

寄せ書きには日本語だけでなく様々な言語で記されており、日本国内のみならず、世界中の人々からのメッセージが被災された方を勇気づけています。こういった気持ちの面での支援も、被災された方にとっては大きな支えとなっています。